

第1回大手前・森之宮まちづくり協議会〔概要〕

と き：平成22年5月31日（月）午後1時から3時

ところ：プリムローズ大阪 2階 鳳凰東の間

内 容

【事務局 議題1、議題2を説明】

（加藤会長）いろいろなものが同時に動いていくということですが、5回ぐらいの協議会の中で、市場可能性等の調査も並行してそれを報告いただく、それをまっけて議論をしていくという理解でよろしいでしょうか。

（岩田理事）基本的には、我々が作業をして、形にしたものを次回以降順次お示しをして、ご意見いただき、中身を進化させていきたい。

（加藤委員）それでは、各委員の皆さん、何かご質問がございましたらお願いします。

（川田委員）質問一つと、意見がひとつ。

P Tのところ「事業スキームを設定し、協議会に意見を求める」ということが書かれているが、その中に財政シミュレーションも含まれていると記述がされていますが、この協議会自身で、事業スキームを設定するところまで議論するのか、どこまで議論をするのかを伺いたい。事業採算性が成り立たせるために何が必要かを行政という立場で判断していくところと、こういう協議会で議論していく内容と、峻別していく必要があると思う。それと意見ですが、今回のペーパーでまちづくりに関係する者との意見交換とか、民間事業者のヒアリングということが資料に書かれている。まちづくりを進めて行く中で、地域の意見をどうやって反映していくのかという視点が大事と思っている。

ただ、今まちづくりの中で、具体的にいいますと、府庁が抜けていくので、この後このまちはどうなっていくのだろうという不安や危機意識をもっている地域もあるやに聞いておりますし、まちづくりに求める価値観というのも、人によって多様化しておりますので、そういった多様な価値感をいかにうまくまとめていくかということになると、いろんなかわりを持っている方が出来るだけその価値観を共有する。まちづくりの共有の基盤というものをもたないと、どこかで決めたからこのまちづくりでいく、これをお願いします、ご理解お願いしますという旧来型のまちづくりでは進めるのが難しくなっているというのが、大きな時代背景としてあるのかと思っておりますので、そういった地域の方々の声の共有の仕方、反映を是非お願いしたい。

（加藤会長）ありがとうございました。2点ありましたが、まず事業スキームの設定についてですが、これは最終的に土地利用基本計画をまとめていくと書いてあるが、戦略的な土地利用を決めていくことになるのだと思います。28年には、第2次事業コンペが予定され

ており、それまでの枠作りということになるとと思いますが、ただいまのご質問について、説明してください。

（岩田理事）財政シミュレーションと、まちとしてどういった機能を集約していくかという議論は、表裏一体ということになると思うが、この協議会では、まちづくりについて、どういった機能で、何が望ましいかということ、大所高所から議論していただき、意見をお伺いしたい。2回目、3回目までの協議会に、財政シミュレーションを行えるだけのプランを出すことは無理だと思っている。理想的な、望ましいまちづくりの絵が描けた段階で、これを次年度以降、事業コンペを行い土地活用していくというときには、コンペしたときの大阪府の財政への影響はどうかというところでのシミュレーションは当然必要になってくる。そういう意味では、我々の作業としてシミュレーションは行っていきますけれども、この協議会では、主にまちづくりの面についてご意見をいただきたい。財政的な面については、資料としてお出しできるものは示していきたいと考えております。

（加藤会長）スキームの設定は、やらないということではない。ちゃんと行い、フィージビリティのある基本的な土地利用の枠組みにもっていきたいという趣旨でのスキームの設定という理解が出来ると思う。

（梅本委員）今、川田委員からお話があった。私は、最後にまとめてお願いをしようと思っていたのですが、一つは地域住民の話が出ていました。これは地域住民の方から言いますと、成人病センターを核にした大手前のまちづくりには反対でございまして、何で成人病センターでまちづくりをするのだろうか。必ずできないですよというのが一つのお話です。今、事業スキームの中で財政の方の話もできましたけれども、これも私も正直に言いますと、大手前の方からだけ言いますと、観光あるいは文化等々の話がでておりました。ここ、切り売りをされますと財政的には非常にいいかもわかりません。一部地価が下がり、入ってくる金が少ないという話がでておりますけれど。これを別にいたしましても、これを売却するなら簡単な話でしょうし、財政的には潤いが出るのだろうと思いますが、それをされると、まちづくりとか都市計画はまったくできないだろうと思う。周辺の皆さんは、成人病センターは反対。だけど知事のご意向とか非常に強い意志、この協議会などを含めて、まず大前提として、成人病センターの移転ありきとすることを議論する。これをはずして何でもいいからということなら非常に簡単な話なんですけれども、まずは成人病センターを核にしてというのが、大前提だと思うので、私もこれを議論してやめてほしいというのもいささか協議会の短い時間の中では出来る話ではないと思う。百歩譲って、じゃあこれからどういう風にするのかということになるのだと思う。それはもう協議会の前にご提案をいただいて、お決めになっておりますので、これを覆していると、この協議会をつぶすために参加したような形になってしまいますので、これはちょっと差し置きますけれども、ただきり売りだけはしてほしくない。もう一つは、ご提案しようと思っていたのですが、この協議会自体に本来なら地域の皆さんが入っていた

いてと思っていたのですけれども、森之宮と両方分かっている者が入る方がいいなとなり、ふたつのものを議題に載せてということになれば府会議員がいいのかというような形で、徳永議員と私が参加させていただきました。これは、それで一つの協議会としての形態になるのかなと思いますけれども、現実にはやはり、地域の特に大手前のことに限って申し上げますと、熱心に勉強会をお持ちになっておられます。私自身は、府庁が大手前を離れること自体に反対しておりますけれども、彼らはそうではなく後のまちづくりをどうしようかという非常に前向きな検討会をやっておられます。

ですから、本来は彼らの話も聞いてやってほしいということで、この会議に参加する際に前裁きでお願いをいたしました。

そうしますと、この会とは別途に、地域の皆さんの意見を拝聴しようとするのを、この協議会のことも説明をいただきながら、私どもが個人的に伝えるよりは、木村副知事や岩田理事をはじめとする方々と地元との間のコミュニケーションを図っていただきたいということをお約束いただき、それを前提にして、この会に参加をさせていただいております。

私自身も地域の方々にご報告はいたしますけれども、一方的な話よりも、しっかりと提案者である大阪府から地域の皆さん方にミーティングするということは大事なことだと思いますので、知事さんがでてきて大上段におやりになるよりは、皆さん方に実務的にやっていただくのが私は良いと思っているので、このことをまずは皆さん方にお約束を守ってほしいと思っていたので、最後に聞こうかなと思っていましたけれども、今おっしゃっていただいたので、併せてお願いだけしておきます。

(加藤会長)

ありがとうございました。昨年度の検討会の中身の中で、地域の方の意見を聴取されたのかということは定かではありませんけれども、一応プロセスとして、来られているということは理解をしました。

他に何か。

(徳永委員)

私も梅本先生と同じく、地域の代表じゃないと思っていますけれども、そういった形で、今から述べさせていただきますのは、多分に私の私見も入っていることをご了承していただきたいのですが、元々、この大手前地区、森之宮地区からはじまったまちづくり、どうしていこうかということはやはり、この府庁のもしくは庁舎のWTCへの移転ということから始まっているんだと思います。その中で、この土地をどうしようかと。じゃ成人病センターをここへもってきたらどうかと。じゃあ成人病センターの跡地はどうするのかというようなちょっとこれがあったからどうしよう、これがあったからどうしようというようなことが去年1年間は多分にあったと思います。私も去年1年間、まちづくり検討会に、こういう形では出席はしていませんでしたが、ずっと出席してきていましたから、状況は分かっております。

やはり、もうどうしようか、どうしようかというようなことになってしまったから、というのはほとんど医療のことをどうしようかしかなかったんですね。まちづくり、森之宮には、健康科学センターや森之宮クリニックといったものが残ってしまうからどうしようかというようなことがありきなような形になりがちで、ただ今回、私ども、2月の議会において総務委員会等で議論を交わして、最終的にはフランクな形にしていこうということで今回の協議会ができたと思ってる。本当にそれはいいこと。もともとのきっかけはどうであれ、大阪城周辺の本来なら本当に一等地で有るべき場所を今の歴史的な部分も当然あったかと思えます。特に東側なんかは操車場、そしていろんな形で、私ども言ったらあかんのかもしれませんけども、ちょっと忘れられている土地みたいな形で、それをなんとかしたい。私も幼い頃からいたという中で、こういった形で、協議会へ参画をさせていただいて、地域の意見代表ではなくて、しっかりと大阪市民、大阪府民の思いをどうやってこの場に出していくかが大切だなと。これだけ大きな土地を開発するのはたいへんだと思う。素人ながら本当に大変だと思っている。やはりここで一番大切な、これ府が中心になってやっていきますけれども、大阪市さんが、本当に一緒、同じ立場でやっていただきたい。今、咲洲・夢洲が、府市連携課という課を立ち上げて、一緒にやっていこうといっている。やはりこちらも同じように、今副知事が中心になってやっていっておりますけれども、大阪市さん側も同じ立場で、例えば副市長さんも出てきて、この大阪として、いわゆる東の拠点というか、歴史文化の中心となる場所をどうやってまちづくりをしていくかということ、そりゃ本当に費用の面、色々な面、当然この時間軸はずれてしまうんで、難しいかもしれませんがけれども、そりゃ1年ではできないと思っています。

大手前はいつまでに、森之宮はいつまでに、残りの東側のところは今焼却場を建替えるということで、プロジェクトが有るのですかね、やはりそういうのも利用して、やっていただきたいなと、そういう方向性を決める形でお願いしたいなと、やっていきたいと思っています。

(加藤会長)

では、木村副知事お願いします。

(木村副知事)

1年間検討会で議論いただき、とりまとめを行ったが、その内容について、議会からも色々と厳しい指摘もいただいた。

先程事務方から報告したように、取りまとめに出しております総論を土地利用計画に向かって、府が責任をもって中身をつめていくということです。地元の意見をしっかり聞きなさい、あるいは、歴史文化に造詣のある方の意見をききなさい。私どもとしては、5年、10年、15年、20年経ってまちづくりが完成したときに、地元の方、そして世間に評価いただけるような協議会の議論にしたいという思いです。したがって、先程梅本先生がおっしゃったように、一つは地元の皆さん方とはすでにお話してますように、この結果を踏ま

えて、タイムリーに回数を重ねることになると思いますけれども、ご説明の機会、ご意見をいただく機会をしっかり作っていきたいと思います。時間がゆるせばですけれども、そういう歴史や文化に造詣に深い専門家の方に講師としてお話をいただくような機会もいいのかなというふうに思います。先程岩田から申し上げたように、節目節目でその状況に応じて、府として責任を持って提案を申し上げます。

その中に、色々な状況を、時々検討の中身を決めていく。そういう意味においては、川田委員からからご指摘のあったどこまでやっていくのかについても、どこまでやれるのかを含めた答えが出てくるのかと。まあ今日は、PTとしての今の総論としてあるものを提案させていただきますけれども、これをベースにさらに積み上げていく。その中で色々なものが答えが出てくるというような思いであります。ご理解いただきたいと思います。

(加藤会長)

ありがとうございます。必要があれば、地域の方々、NPOなどのご意見をいただく場を設けることもしていくという説明でしたね。

この説明で川田委員いかがでしょうか。

(川田委員)

梅本委員からもご指摘をいただきましたし、事務局もそういう形で受け止めていただいているということですね。

若干補足させていただきますと、この場で議論がありました内容を報告して、意見を聞きますという形よりも、今まちづくりでわりと求められているのは、対話ですので、対話をしながら、まちづくりの方向性を共有化できるような場を設け、地域の意見を汲み取っていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(加藤会長)

平松市長は、みんなでやりましょうというのがキーワードになっておりますけれども、昨年度のとりまとめを見ますと、成人病センターの大手前の移転が核となっており、それ以外の観光・集客とかについて掲載されておりますが、この協議会には観光の大専門家が一人おられますので、より適切な意見がきけるのではないかと期待しておりますし、増田委員という大阪市のこの辺に造詣の深い方もおられますので、大所高所からという意味では人選には心配をしていない。大所高所というよりはむしろ地域の意見を組み込んでいくという課題が少し有るのかという気がします。

ということで今の質問はよろしいですか。よろしければ、議題3に移ります。

【事務局 議題3説明】

(加藤会長)

ただいま、PTからの提案ということで、昨年度の検討結果をもう少し詳しく図に落としただというイメージでしょうか。その中で、大きくは、特区提案と、それぞれ大手前の方で

は成人病センターに付随するようなもの、それから森之宮の方では大学という具体的なイメージをコアにということが書かれています、全体的にまず大阪府庁がベイエリアのほうに行っていてですね、その後でこうすることで、現状よりも悪くならないように、現状より良くなるのではないかとするのはもちろん望みでございますけれども、そういう視点もあろうかと思えます。

ご意見。ご質問は、ありますか。

(梅本委員)

お話を聞いておまして、東西軸の西の方はとおっしゃるけれども、咲洲・夢洲なんていうのは、今、大阪城の観光の面から考えると、閑古鳥が鳴いているような、ぺんぺん草が生えているような場所ですが、府庁が移転してそうなるのか良くわかりません。

今東側が立派な地域資源を持っているというのは、事実ですからこれをいかに活用するかということが大事で、私はここに府庁があって何が悪いのかと思えますが、それは百歩譲るとしまして、大阪城の活用にまさか高級レストランとかがほしいとは思っていないし、難波宮なんていうのは世界文化遺産に登録するのに、大阪城の石垣だけじゃなく、少なくとも難波宮もそれぐらいはしたいし、今奈良遷都1300年のイベントが行われているが、国営にするのがいいのかどうか判りませんが、難波宮も調査が進められていて、本来ならぜひ一番先に復元されて当然と思うのですが、残念ながらいまだ進んでいない。

これはやはり、この際、大阪市さんだけというのではなく、府の方でも復元の努力を一緒にやったらどうでしょうかというのが一つ。

それから、せっかくこのエリアを面として考えるなら、何で青少年会館を手放してしまったのか、あるいは大阪市さんの方もあわせて市有地をどうするのか。売却するのかしないのかを含めると、長いスパンでの計画というものができていないのではないかと、せっかくゾーンを分けて考えようとするなら、なぜ青少年会館を売却してしまったのか、しかもこれ京阪さんが最終的にお持ちなるようだから、民活としてこの一つエリアの構想として参画していただいてやるというのなら大いに賛成だが、正直申し上げて、民間の土地になっただけで今後どうなるのかと。あるいは、日生球場がありますが、これも、エリアとして考えるなら、日本生命というある意味では公的なこともやらなければならないところですから、他の所有に移る前にアプローチをしないと、これも何も対応できない、あれも対応できないと、歯抜けのような状況になってしまう。構想がいわゆる歓楽街にするのかというような感じを受けてしまう。もっと文化の香り高いものといいますが、せっかく大阪城に来られる方の回遊性を高めるなら、意気込みを示すような建物なりを作ってはどうかという気がする。それから、メディカル等々といわれるが、成人病センター以外は、全部既存のものがある。情報等についても記載されているとおりだし、文化についても有る意味では活用さえ、連携さえ取れば、十二分に活用できるようなものがそろっているわけです。

もうひとつは、別館や本庁舎が、WTCに移ってしまうなら、私は、本館の一部を歴史的な

施設として残すということを別にして、機能をここに置かなければならないということにはならないと思う。ところが機能の一部を残して使う。その辺は、一貫性の無い案だと思う。これだけ強引にWTCに移転するようにもっていかれたのだから、機能の一部も移すことも、私は、現実的な面として考えたら思う。

それから、特区等については、ぜひ民間のところも巻きこんで、民間から要望が出るかどうかは判りませんが、今賃貸業をしている事業主、これだけの府庁の事務所が抜けてしまうと、テナントが抜けたというような簡単な事情ではなく関連して飲食関係から大きなダメージを受けるわけですから、府庁の公的なところだけの特区ではなく、面として大阪城エリア全部を特区にするとかなど、規制緩和と特区という両輪でやっていただき、私企業の対しても、OBPの企業はどうか知りませんが、少なくとも、大手前はそういうふうにしてほしい。そうしないと今企業の本社機能を持ってくるといっても来ないと思う。ですから、そういうことを含めると、特区で本社を持ってくるといような時代ではなくなっていると思う。それよりはもうちょっと、文化とか何かに力をいれた特区などを考えてほしい。ぜひ、今の案ではなく、もう少し高度な、高尚ない文化施設なり、あるいは、集客施設を考えてほしい。難波宮にしてもテーマパークなんていうよりは、文化遺産としての再現ということで、文化の香りの高いものとして残すべきだと思う。それから緑の話が出ていたが、大阪城周辺の東側はさびしくなっているように思われるけれども、今大阪市内でこれだけ緑が豊かなところはない。緑を活かした施設というか、集客を考えないともったいないという気がする。せっかくこれだけ大阪に残された緑を何とか活用してほしいというのが私の意見。

(木村副知事)

非常に幅広く、こういう議論を期待していたので、非常にありがたいのですが、少し行政としてコメントしたいのですが、私は、1年間検討会に関わってきてこのレポートとの整合性とか、議会でいろいろな議論との整合性を考えて、この提案について、色々とプロジェクトチームと議論しました。

随分、中身を替えているところがあって、例えば、大手前について言うと、広場とか庭園とか、梅本委員が先程おっしゃったように、売却するだけが方法ではないという風なことで、結果として一部売れないような絵になっている。そうなりますと、全体のコスト面について、高くなるのではないかという、議論に逆行しているようなところがあって、だけどもまちづくりの要素としてはこういうものも大事だとか、森之宮の方でいえば、健科Cの使い方についても、今回、もっとフリーに考えてみよう、大学がここへ来るなら、今の中身をがらがらポンして大学に使っていただくというのも可能性としてはありえるといったことで、絵を随分変えました。一方で、一番気を使ったのが、移転条例であり、6ページのように、本館と別館は春までの議論のままの位置付けにしています。ただ、本館の前面の部分と正庁のところと、議会は別にして、残り全部をホテルやホールにしてしまっただけで中に行政が入るあるいは議会が入るといような絵も描いてみたのですが、別館も民間

につかっていたらどうかと。だけどこれは、議会の議論を踏まえれば、ここまで描けないということで、ぜひこのあたりも、6月にはWTCの所有権も変わりますので、その中でこの絵の書き方は変えたらどうかというご提案をいただくのは、この協議会として意味のあることだととらえますが。

(梅本委員)

議会は、今おっしゃったように、本庁機能を残せということが一つの場合でしたから、本来はこれだけを残すのが必要なのかという議論をしなければならないのだと思う。今まで、全て移転するというので、本庁機能を残すという結論でしたから。ただ機能的にWTCに移ってしまって、何も無いのに二重投資することは私自身は無いと思う。私は、WTC移転に反対で、移転も、WTCビルの購入も反対をしましたが、全部否定して通らなかったんだから、そこで次の案がどうかというのそれはそれなりに前向きに考えたらいいと思うんだけど、唯一つ問題があるのは、今のこういうものがあってできないというようなことをときどきおっしゃる、だけど、あれば有るで、残すと言うなら知恵をしなければならぬし、無いのがよければ、更地が一番いいのしょうから、それはそれなりに大きな構想でやればいいのだと思うんですが、ですから何か加えておいてできないというような議会におけるような説明をされると、じゃあ残してやれやと、また、合築も含めて考えたらええやないかとなるんだけど。基本的にやはり、ここまでずっと運んでしまわれて、果たして残すことがいいのかどうかと、これはあくまで個人の私見であり、こんなことを議会で通すというわけでもなんでもないんだけど、けど例えば私らも反対はしたけれど、やるべきことはやったらいいやないかというのが個人の意見ではあります。ただし、知事に迎合していつているわけでもなんでもないんで。

(木村副知事)

本館、別館の扱い方については、かなりフリーにお考えいただければと今ご了解をいただいたんで、そういうふうにお考えいただければと存じます。

(加藤会長)

面的な土地利用では、どうしても不確定要因が出て、修正をせざるを得ないところがありますが、そういう意味ではオールタナティブで複数案を考えるとすることも視野に入れてよいというふうに理解させていただいてよろしいですかね。

まあ、今日提案していただいたのは、一つの案ということですね。

他にご意見は。

(徳永委員)

私なんかは、まちづくりに関しては素人なので、いくつかお伺いをしたいことがあるんですけど、私は森之宮、大阪城の東の方、梅本委員は西の方という形で、地元に対する思いというものがすごくあるんです。反対に欲目があったり、こうなってほしいという願望とかが有るが、本当に実現性とかを含めて第三者的に、どういうふうに森之宮、特に森之宮周辺の方です。例えば近くにKKR、具体的に名前を出してはいけませんが、そのホ

テルの上から大阪城がちょうど見えるようになっているんですね、大阪城を見るのがごくポイントになりますから、奥にOBP、左を見ると府庁周辺、大手前、すごくきれいに見えるんですね、ホテルのある大阪城の南側は。東側は大阪城が見えないようになっている。本当は、そこも何とかしなければ、この大阪城周辺はよくなる。ただ、本当に可能性としてどういうまちづくりをすればよいのかというのを一度。今の時点でどうとらえておられるのか、例えば森之宮なんかは本当に、3つの鉄道が、都市交通がつながっている。でも正直何も無いところだ。例えば、都銀はない。銀行は小さいのが1つか2つあるぐらいで、そういったような場所になってしまっている。なんでそうなっているのかなあと、やはりこういうまちづくりを今やりたいという中で、どういうふうに捉えておられるのか一度、そして開発というのできるのかどうか、URさんに一度、せっかくこういう機会なので、最初にそれを聞いて、どうしようかなというのを言いたかったので、質問させていただきます。

(加藤会長)

URさんどうですか。

(田中委員)

森之宮の件ですが、こういった開発が考えられるかというご質問だったと思いますが、これは中長期的な話になると思うんですけども、例えばここで言うと森ノ宮駅前の周辺、あるいは2ページの都市資源の中で、大阪城公園駅は丸が打ってないんですけども、大阪城公園駅も一つのアプローチができるわけで、その周辺というとすぐわかるように、東側にはJRさんの停車区なんかがありますので、この辺を中長期的にどう考えるかといったことを考えていかなければと、それから、大阪市さんがゴミ焼却場の建て替えに関して、資源エネルギー循環型のまちづくりということを提案されていますので、この辺からのエネルギー供給をどういうふうに、地元還元、あるいは供給していくか、あるいは成人病センターの跡地についていうと、地域医療というキーワードが前回の検討会で出ていると思うんですけども、地域医療を周辺にどういうふうに広めていくかというようなことをキーにして周辺を開発していくと、それから、我々URの賃貸住宅が、実はこのゴミ焼却場と成人病センターの間に約2600戸あり、さらに大阪市の公社の住宅、それから民間の分譲住宅を含めて約3,000戸ぐらいはある。この辺の住宅を、例えば環境型の住宅に変えていくとか、地域医療との連携を図るような住宅にしていくとかいったような、中長期的な開発の視点が森之宮の方では考えられるかなと思っています。

併せて、本日のプロジェクトチームからの提案の最初の観光に関係するところでいきますと、例えば、京都とか、奈良というのは、歴史文化の集積があって、観光客を集めると、それから、神戸なんですけれど、神戸というのは、歴史文化もあるんですが、どちらかという、港に隣接した都市という都市の魅力でヒトを集めている。そこで、大阪城周辺はどうやって集客するかということになると、大阪城そのものは歴史文化として非常に集客力があると思うんですけども、これ以外に集積が無いというですんで、先程の2ページ

の図でいきますと、特に大阪城周辺で、例えば大手前で行きますと、高度医療というような提案があるように、医療と大阪城、あるいは医療と観光、メディカルツーリズム、それからその上の天満橋周辺でいきますと、テレビ局とか新聞社とか情報がありますんで、情報と観光、それからさらにその北側にいきますと、美術館とかホールとかがありますんで、文化と観光といった、あるいは森之宮でいきますと、先程のお話のように、環境と観光とかですね、そういった大阪城周辺に観光資源を集めるというよりは、むしろ、大阪城を使って連携を図っていくような周辺の開発を今後していくというようなことが、集客力を高めるような開発につながるんじゃないかなというように思います。

(加藤会長)

いくつかご提案をいただきました。

私は個人的にウィーンの周辺の事例がでていますが、ウィーンのリンクシュトラッセの中は全部市街地ですので、都市活動は非常に層が厚いところがあるので、参考になるとすれば皇居周辺、皇居の中には何も無い、そういう中で周辺は地価が非常に上がっているということをもう少し考えて、大阪城周辺もそういう方向にならないかという思い入れもありました。

次に増田委員いかがでしょうか。

(増田委員)

なかなか色々、難しい議論が多かったように思いますけれども、私の立場から言うと、歴史景観とか景観という面から見ていくとどうかということですが、一つは先程も出てましたように、ここの持っている緑としての価値、これはやはり大きな意味で言うと、元々この中央大通りの高速道路、地下構造物があるということもあったんですけども、大阪城と難波宮を繋ぐところを、高架橋で分断しないように、わざわざ高速道路を下に降ろしている。

そういう面で言うと、元々大阪のルーツである難波宮のあたりにスポットが当たってないというのが一つ。このあたりどういうふうに考えていくのか。今回少し遅れましたけれども、奈良の方は、平城京の1300年祭を機会に、国営公園化したわけですね。そういうふうに国交省の公園にすることによってある展開を図った。まあ文化庁がもっているとなかなか投資ができないということで。そういう面から行くとまあテーマパークというようなことが本当にいいのかわかりませんが、もう少し大阪のルーツである難波宮と大阪城ということをベースに、いったいこのエリアをどう考えていくのかというあたりが、一つは重要なのかなと思う。

それと、先程も出てましたように、ここの観光って一体なんだろうかと。そうすると、ここだけに周遊するというよりは、むしろ、今水都というのもあるので、例えば、大川、寝屋川の水系と、大阪城周辺エリアとの接点、それは観光という視点から見たらどういう関係性があるのかという、せっかく水都といいながらその関係性がここには全然述べられていない。

あるいは、観光の中の関係性でいうと、元々大阪城が立地したときに太閤さんが目指したのは、上町筋を四天王寺までつなげて、そこを都市軸にする。政治の拠点が大阪城で、集客拠点として、四天王寺が日本全国からの集客性をもっていると、そこに都市軸を形成しようとした。そういう面で行くと、歴史の集積というのは、上町台地であって、大阪市なんかでも非常に大きなまちづくりが動いていたりするわけです。そういう面で言うと、もう一つの観光の回遊性からいうと、もう一つは上町台地とのつながりをいったいどう考えていくかというのがもう一点です。もう一つのつながりというのは、先ほども出ていましたように、風の道の計画みたいな形で、中央大通、あるいは本町通も大阪の歴史にとって非常に重要な通りだと思んですけども海につながっていく。その延長線上に大阪城の南の辺が接してて、その延長線上に森之宮があって、これを例えば、環境観光みたいな形でみていくと、そこにつながっていくという見方が出来るという。非常に、大阪城を拠点にして、どちら方向に手足が伸びているのかという見方をすれば、もう少しここでの観光の色といいますか、どういう方向性を考えていったらいいのかということがもう少しみえてくるのかと思います。そうでないと、今のこの観光ウォークのところを見ると、量販店だとかアウトレットだとか、カフェだとかレストランとか、まだまだイメージが貧弱といいますか、観光拠点というには。

ここから水の軸が伸びていますよ、南側に歴史の軸が伸びてますよ、西に対して環境に軸が伸びてますよと、そんな視点の中でとらえられないかなと思います。

もう一つ景観という視点の中で、これも少しひ弱かなというので、大手前通で谷町筋からどう大阪城が見えるかというのが考慮すべき点として出てましたけれども、元々大阪城は、京街道と、大阪の都心拠点というのは高麗橋にあったんですね、高麗橋から東向きに臨むというのと、京街道から大阪に下ってくるという、そのちょうど交点に都市戦略上、大阪城が建てられて、京街道からの見え方、と大阪市中からの見え方という形で、大きな戦略の中で、大阪城が立地したと。そういう風な視点から見ると、大阪城が、今都市の中で、中心市街地から見ると、埋没して一切見えないと。これ谷町筋の大手前ぐらいから見るというよりもう少し御堂筋という大げさになるかもしれませんが、もう少し旧の高麗橋に近いところからの見え方というのも一回、どういう風にしてこのシンボル性を高めていくのか、そういうもう少し幅広の景観戦略みたいなものがもう一点あるのかなというのが、私が用地計画や景観計画の視点から見たときに、このもっているポテンシャルから見た視点からですが。

ここで、大阪城周辺エリアというぐるっと囲まれて、紫色があったり、あるいはピンク色があったり、グリーンがあり、観光集客特区とか書かれているんですけども、どうも方法論としての特区提案であって、目標像があって、この目標像を達成するために、こういう特区でいきますよという、もっとこの会議の中で目標像をどう設定して、それを達成するために、公有地の活用だとか、特区を手段としてもってくると。そのあたりをもう少し幅広に議論をしていく必要があるのかなと。3つぐらいですかね。今気づいているのは。

(加藤会長)

続きまして、橋爪委員いかがでしょうか。

(橋爪委員)

私は、今回の考え方というのは、順序が逆。まずはじめに2つの公有地の利活用がありきで、集客の将来像を我々は考えるという手順。通常、この界限はこういうゾーンにすべきだという議論が先にあって、そこはこういう機能にするということから、将来の議論が始まるはずだが、議論が逆転している。

ブランディング戦略は、戦術レベルでしかなくて、なにかというところのようなブランドにしていくのかというのが明記されていないので、このエリアをどのようなブランド力にするのかをもう一度きちんと描いた上で、方法論をもう一度描くべきだと私も思います。

先程、指摘があったとおり、公有地活用特区と、公共が自ら言うのはいかなものかというのがありまして、エリア全部が特区のはずなので、公有地だけに見えてしまうというのは、描きぶりがですね、非常に問題があるんじゃないかという気もいたしますが。

奈良の場合は、文化庁にビジョン、将来像しかなくてですね、初めて国営公園化することで、次の計画が動き出したんですね。

それをテーマパーク化といわず、次のビジョンをもって、底地も国が持っていますから、国家的な公園として、位置付けていくということが非常に大事なことだと私は思います。

あとアウトレットといわれましたが、カフェ・レストラン等もですね、描きぶりだと思わうんですけども、安っぽいテーマパークだとか、その辺にある様な全国チェーンのカフェと思いがちですけども、そうではないこの場所にふさわしい施設の導入だということを判るように書いていかなければ、ここはなかなか地元で説明しても理解を得られないところだと思います。

私としては、こういうふうに玉突きをしながら、全体を変えていくというのはまさに戦略として、非常に地域をよくする上で大事なことです。この機能を導入して、それが連鎖してエリア全体が変わっていくというプログラム自体は、現状において、我々が持つべき方法論だと思います。

それと大手前の方に限って言いますと、梅本委員がおっしゃったように、切り売りになってはいけません。ただ、切り売りとはなんぞやということがあってですね、成人病センターという拠点と、美術館とか、あとホテルとか、ビジネスが一体となった画期的な、複合的な、統合的な開発ということまで水準を上げれば、全体として魅力的な複合ができれば、こういう組み立て方もですね、挑戦する意義は今この時点だからこそあるというふうに思います。切り売りしたところが、ぜんぜん違う、入り口もあっちこっち向いて、それぞれ勝手な施設にならないように、タウンマネジメント、エリアマネジメントをきっちり書いた上で、魅力的な場所にしていくということが、ここにおいては重要なことだろうと。

(梅本委員)

例えば、メディカルツーリズムにするならば、それに関連したホテルなり、関連したも

のにするというのならいいんでしょうけども、片一方では違うものをやってしまいますよというのであれば、それなら、今、国立病院もあれば、大手前病院もあり、歯科大もあるということで、ある意味で出来てるわけなんで、それなら森之宮に成人病センターを置かれて、せっかく今の関連したものがああるわけですから、何で大手前にもってくるんだらうかという雰囲気はもっております。このまちを作るというものを示していただいて、このゾーンがわからないので、ゾーンの中であれもこれもありますよというのにはちょっとどうかなあと。

(加藤会長)

例えば、例ですけれども、130万人の大阪城天守閣に来る観光客がいる。これを150万人にするとか、200万人にするという計画はないんですか。

全体で130万人を150万なり180万に、こんな施設を持ってきたら出来るのではないかというような議論が、多分底流にはあるんじゃないかと思います。そのために、こういう土地活用、特区ですか、観光集客特区なんかも出てくるべきものだと思うんですけども、そういう議論はあまり無いんでしょうか。

(岩田理事)

130万人、150万人、200万人という議論はまだしておりませんが、ただ、府域全体で将来的には、日本にくる観光客の半分を大阪に呼ぼうという議論は庁内にもあります。目標設定については考えたいと思います。

(梅本委員)

簡単な話で、例えば桜ノ宮の造幣局の通り抜けのときはですね、バスをこちらに止めて御覧なさい。車をこちらに置かせるだけで、年間トータル、多分桜ノ宮にお越しになっている数だけ、変な話だけでも、人は増える。ですから、そんな大きな作業をしなくてもいい。

(橋爪委員)

大阪城天守閣の入場者数なのでこの数ができるのであって、大阪城公園全部の人の出入りならそんなどころの数ではない。観光客でも天守閣に入らない人の数はカウントされていない。

(加藤会長)

ですから、そういう数字をきちっと、まあ無理ですけど、観光指標というのは難しいですけども、どこをどれだけ伸ばしたいのかという、そもそも論でね、政策目標みたいなものがあつたほうが、なんとなく議論がしやすいのかなと思います。

(増田委員)

例えば、服部緑地なんかは観光拠点ではないですけども、多分利用者数推定ですけど、300万人はくだらない。

(岩田理事)

確かに大阪城周辺で、ざっと300万人とかいう数字はございますが、きちっと精査したも

のではありません。数字は持った上で、どこをどう伸ばしていくのかという議論はしたいと思っています。

(加藤会長)

ご提案の内容について、今日はどうぞ自由に行っていただいてよろしいかと思います。後は事務局がまとめていただくということで。

つぎにご意見はどうでしょうか。

(山西委員)

私は比較的最初から大手前の委員会に関わっていましたが、多分、私が医療関係者ということで呼ばれたんだと思います。私の理解ではまず成人病センターを大手前に移すということから始まったんだと思います。私の全国のがんセンターのイメージでは、東に国立がんセンターがありますね、しかし西にないんですよ。それが私は成人病センターだと思っているのです。東京と比べて大阪は、アジアに近いという利点があることで、アジアからの患者さんを受け入れる素地は十分あるとおもいます。本当は、関空の近くの病院が一番近いと思いましたが、いろんな潜在能力とかいろんなことを考えますと、成人病センターは非常に重要な位置にあります。だから、成人病センターを単に移転だけじゃなくて、ぜひレベルアップして、患者さんに来ていただくためには大阪、新大阪も含めて、それから関空も含めて、非常に交通の便も充実しなくてはならないと思います。それから、現在ではがんの治療は、別に入院しなくても、できる場合もあります。一例は前立腺がんに対する重粒子線治療です。私も、大阪で随分要望しましたけれど、大阪にないですね。そういうのが成人病センターの一つの治療ツールになれば、大阪これだけ大きいまちですから、患者さんは海外のみならず、全国からどんどん集まってくると思うんですね。更に成人病センターでの治療もぜひ、ホテルから毎日通えるよう、患者の受け入れも含めたホテルをやっていただきたい。それから私は、国際学会行ったりするのですが、大阪って国際学会はあまりこないんですよ。国際会議場は、別ですが。多くの国際学会は、京都、神戸に行っちゃうんですよ。これはいったいどういうことかということ、やはり先ほど観光の話もありましたけれども、大阪は、京都や奈良へ行くのに通過してあまりありませんよね。何か目玉というのが、大阪にもあると思うのですが、どうも宣伝が下手なのか、明らかにならないというのがありますね。もし、この地区を一つのコンセプトがメディカルなゾーンとして力を入れるんだったら、成人病センターは、レベルアップしたものを作る。それから、ホテルもそれにあったものにするというのが、重要で、あまり単に移転するだけというのは意味が無いなと思います。

(梅本委員)

土地も狭い。ですから、高層化というか上にあげていくことになっていくのでしょうから、そんなことを含めると、一部議員の提案です、府庁が移転される場所はどうか、関空の周りのところではどうか。一番いいのは、現地で建替えるというのが、本当は関連事業、余剰地をそういう風にして、ちょうど循環器センターなん

かも、横の用地を分けていただいて、そういう関連の事業、患者さんの家族の建物も含めて。私は、皆さんおっしゃっているように、立地とかどっちもやはり一つのものを核にしてやろうと思えばいるんじゃないかなと。

(山西委員)

別館は、今後どうするのですかね。

(木村副知事)

先程申し上げたとおりです。府庁移転条例のからみでということで、前回のこの報告書でも別館は残すという前提で一致している。ただ、ご指摘のように、今後、府庁近隣の民間ビルに分散している組織が、WTCへ移りますと、後どうするのかという議論になってきますよね。その時に最後まで今日のような絵で行くのかはまだ、我々として今出せるのはこの絵ですので、ぜひご意見を頂戴したいということです。

(山西委員)

本館は、文化的な感じが若干しますが、別館はそのような感じがしないので、府としてぜひ考えていただきたい。

(加藤会長)

まだまだ変化する要因はございますけれども、とりあえずのところは本館、別館はあったと仮にして、後どのような絵を描いたらよいか。成人病センター等の敷地の大きさなどは一応仮の置き方だと思うのですが、これはもう少し土地がたくさんがあってもいいのではないかという議論もあったように思います。そこら辺のフィージビリティについては、別途研究をされるようですので、そういうものを見ていきたいと思います。

ここの中で今日ぜひご議論いただきたいのは、森之宮の方で例えば大学の誘致など、いいのかどうかご意見があれば伺いたいですし、もう一つ交通の問題で、このあたりのエリアは条件はいいじゃないかという話がありましたが、1点LRTを回すウィーンの例が出ておりましたけれども、交通に関して何かご意見があれば、お伺いしたいと思います。

(橋爪委員)

特区は、非常に大事なことなので、出来るだけ早急に動き出していただければと、名称はさておき。この特区の動きは、ぜひとも急いでいただきたい。ただ、特区というのは、規制緩和、今できないことの緩和を求めるのが特区ですので、原則、それ以外のことは新たに起こすソフトのプログラムとかハードのプログラムまでここには盛り込まれている。LRTの導入もそうですし、難波宮の復元とかになると、それはそれで奈良と同じようにやろうとすると、国家プロジェクトにしてもらわないと、奈良でもできなかった。地元自治体でしたことではない。そういう新しいハードプログラムについて、夢物語で10年後とかの事を書くのか、それが後の土地利用計画と響きあうところなんですね。ここで我々が、LRTを入れると言い切ってしまうと、先々それが何時のことかわからないということみたいに、絵にどこまで落とし込むのか。まあ今日は、かなり自由な話ができていると思いますが、先々そこが大事なことだと思っていますので、特区以外の戦略に関して、財源どこ

が、あるいは市府の関係でどう考えていくのかということまで含めて考えるべきだと思っております。

森之宮の方でも、玉突きでやっていくわけですが、求心力のある、他のまちに比べて、明らかにこの分野においてはある種の集積になっているという場所になっていかなければ、周りのまちづくりのトリガーにならないので、大学の誘致等となってますが、「等」というのは良くわからないので、ここはこういう方向で核となる機能をとということを出していくことだと思います。

(梅本委員)

上町の辺りは、公共交通機関がない。色々活動したが、だめだった。上町には、昔市電がありましたけれども、難波宮の活性化のためにも、公共交通機関がほしいですね。

(加藤会長)

いいたい放題でよいのですが、例えばどのようなアイデアがありますか。

(梅本委員)

私は、今環状的にというのもいいのしょうけれども、府市で一体の案を作るのなら、地下鉄を上町筋に通してほしいですね。

(加藤会長)

というようなご意見に対して、川田委員いかがでしょうか。

(川田委員)

どのタイムスパンで議論するかということです。先程、橋爪委員がおっしゃった意見と同じですが、私、当時、たまたま長堀鶴見緑地線の時に、上町筋を通るかどうかという議論をやっておりまして、その時の議論を振り返りますと、遺跡の問題が非常に大きかったです。特別史跡のはずれに、大阪城の西の方が入っており、シールド駅を造るにも開削部分が必要で、それはできないという物理的な制約があり、現ルートの地下鉄にしたという経過があります。

先程のLRTを含めて、どこまで地に足の着いた議論をしていくかという視点でいいますと、事業コンペなどを想定して議論をしていくわけですから、不確定要素を民間事業者に対して与えると、混乱を招く恐れがあります。こういう協議会の中で自由に話をすることと、それ以外のことはきちっとわけてやっていかないとはいけませんし、この協議会の中で、やはりそういう方向があるよねということで、期待感を持たすという恐れもありますので、そこはきちっと行政なりの判断をしていく必要があると思います。

少し戻りますが、増田委員、橋爪委員がおっしゃっているように、特区というのは、やはり手段ですので、まちをどうやっていくのかというものをしっかり作った上で、本当に何がいいのかを議論していかないと、公有地活用特区で、税の減免であるとか、無利子貸付とか、交付税措置とか色々書いてありますけれども、こういう内容は民間企業にとってあるにこしたことはないのですが、少なくともこれが無いと、ここの土地に進出しませんよと当然おっしゃるわけですが、本当にこれがここに進出していく決め手になるかとい

うと、必ずしもそうとは限りません。例えば、ここで、劇場とか、ホールとか、ホテルとか、美術館とか文化的な施設が書いてあるんですけども、これは、一般の劇場とかホテル、美術館ではなくって、ある特殊性をもっていないと値打ちもありませんが、ある専門性を持った値打ちのあるものを誘致するとすれば、本当に、その一般的に言われるようなインセンティブが大事なのか、それともそうでない部分でもっと大事なものがあるのか、違ってくると思います。そういったところを、事業者のヒアリングとあわせて、こういう文化施設は非常に難しい側面があると思いますので、よくお話をされて、やっていただきたいなと思っております。

(梅本委員)

知事が、これを急いでおられるのは、まずは全国で、大阪が一番先に手を上げて、大阪に指定をもらうという感覚が非常に強くある。

実は、一般質問の中で、徳永委員が知事と議論をされて、知事はスピード感を持ってやらなければいけないという答弁だった。ですから、そういう面で言いますと、早く整合性をもってやらないと。それはマイナスにはならないと思う。決め手になるかどうかは別にして、規制緩和は大事なことだし、減免とかは実利があるわけでしょうから、私は早くやるべきだと思うのですが、今ちょっと話がありました。果たしてこれがどうなのか、あるいはそのための要件がどうなのか、急ぎすぎて拙速になってもいけないということがあります。

(木村副知事)

特区についての時間軸の印象ですけれども、今回、知事がおっしゃっているのは、従来型の構造改革特区、いわゆる地域特区と、上層にある国際改革特区という形でバイエリアを一つイメージした。これに対して、政権の方からかなり評価をいただいているようですが、今大阪城で提案している特区は、旧来型の構造改革特区に近いものであって、例えば、彩都であったり、他のところで申し上げているもので、今梅本委員がおっしゃっていただいたように、今乗り遅れてはいけないというものではないということをご理解をいただけたらと思います。ただ、ご指摘のとおり、目的と手段の整理というところが、混同されているというところは、我々としてはこの流れに乗れば、この大阪城にも色々なメリットが出るのではという思いもあって、今回少し特区というご提案をさせていただいただけで、何も乗り遅れるからということではありません。その辺はご理解をいただきたい。

(加藤会長)

とりあえず、一通り、ご意見をいただいた。時間も3時になっております。

色々ご意見をいただきましたけれども、概ねお示しいただいた内容について、100%あかんという話はなかったというふうに思います。

議論の種としては、十分評価できるものが多々あったのではないかなというふうに思いますので、今日の議論を少し事務局の方でまとめていただきまして、再度ご検討いただいて、次回出していただきたいなと。

最後に、一言、個人的に思い入れを言わしていただきますと、先程の交通の問題で、LRT、文化財の問題などの話がありましたけれども、まさにそのために特区はあるべきだろうと、交通特区みたいなですね、交通って本当に、いろいろがちがちに制約がかかっていますので、何か移動のしやすさみたいなものが、シンボルに加わるといいなと思いましたので、ちょっとお時間をいただきました。

もし意見がなければ、この辺で事務局に進行をお返ししたいと思います。

(木村副知事)

私も少し話をさせていただきますと、去年の8月のはじめに、WTCの動きをきっかけに、この大手前の検討会というものが始まりました。その時は、成人病センターの移転というのは、まだ決まっていなかったんですね。それから1月後ぐらいに色々な議論があって、移転がベターだということになり、その前提で議論をしてまいりました。

出来るだけ具体的にという思いでありましたけれども、先程の時間軸の話も考えていただければ、本当に27年度の話は今決めてしまうのかという思いもあって、かなりゆるやかな方針となりました。その中で、この春先から、特区の話が出て、先ほど議論があったように、とことん夢を語り合って、それを2つのポイントにつなげていくというのが、我々としては理想でありますけれども、やはりその中には色々な制約条件がございます。

今後、コンサルがどのようなものを出してくるか、あるいは、地元の皆さん方の希望というものもある中で、良いものを作る。一番初めに申し上げたように、5年後、10年後、15年後に、やはりこれでよかったと言っただけの最適のパイを見つけていく。そういう意味で府庁としても知恵を絞ってまいりますので、確かに今日の話はすごく良かったと思いますので、これを整理していきます。ただ、整理しきれない部分も、たくさん出てまいりますので、また、ご相談しながら進めていきたい。それと、大手前については、もう少し議論が広がるような提案をしたいなと、私は思います。

また、相談して次の会合に備えたいと思いますので、よろしくお願いします。

(岩田理事)

非常にクリエイティブな意見をいただき、次回までに、宿題を100%こなせるか若干不安はありますが、精一杯我々としては、努力して、次の議論に耐えうるようなものを出したいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。